

『お昼の放送の時間です』を読んで

弘前市立福村小学校

造 田 陽央里

わたしは、『お昼の放送の時間です』というお話を読みました。この本を読んだ理由は、タイトルが、セリフみたいでおもしろそうだなと思ったからです。

四年生のかえでは、おしゃれな放送をしたくて、三年生のころからきめていた放送いいんになりました。しかし、かえと同じ曜日に放送するペアになったのは、なかよしのきりちゃんではなくおちようし者の同級生、こうへいでした。こうへいは、放送の時、へんてこな学校クイズを出したり、ひまだと言つてかえでの放送によけいなどうか音を入れたりしてくるので、わたしは、こうへいってへんな人だなと思いました。でも、こうへいの家に行ったり、こうへいのお母さんに会いに、いっしょに電車に乗って行ったり、そのあとさくらがおかゆうえんに行ったりしているうちに、ちよつとずつこうへいのいいところが、かえでは分かってきたんだと思います。そして、わたしもこうへいのよさを感じてきました。

こうへいは、三年生の夏休み、お父さんとお母さんがりこ

んして、本当は、お母さんとくらしたかっただろうと思うけど、お父さんが一人だとかわいそうだから、お父さんにはこうへい、お母さんには弟と決めていて、こうへいは、やさしいんだなと思いました。

前、放送で三年の二学期から上ばきを洗っていないと言っていたけど、お母さんとはなれてくらしているからなのかなと思いました。こうへいは、明るく言っていたけど本当はさみしい気持ちで、がまんしているのかなと思いました。

はじめは、相手のいいところが分からなくていやだなとばかり思っていたけど、さい後は相手のことをおたがいに思いやれていて、よかったなと思います。

わたしは、このお話を読んで、はじめはいやだなと思つても、やれば楽しいなと思つたり、いいことがあったりするんだなと思いました。もし、この本のつづきがあれば、もっともつとこうへいとかえでの放送を、聞いてみたいです。